

平成23年度 事務事業評価表(平成22年度分に係る報告)

評価対象事務事業名	グリーン・ツーリズム推進事業			事業コード	1724
担当課等	所属名	農林部 農政課	担当係名		
	課長名	小原俊彦	担当者名	吉田 香代子	電話番号

1. 事務事業の基本情報

総合計画体系	施策の柱	活力ある産業の振興	コード 5	施策	活力ある農林業の振興	コード 1
	基本事業	生産意欲と技術の向上	コード 1	関連予算 費目名	一般会計 6款 1項 6目 グリーン・ツーリズム推進事業(010-01)	
	特記事項					
事業期間	<input type="radio"/> 単年度 <input checked="" type="radio"/> 単年度繰返 <input type="radio"/> 期間限定複数年度			⇒ (開始年度 平成14年度～)		
事務事業の概要	グリーン・ツーリズム(GT)は「緑豊かな農山漁村地域において、その自然、文化、人々との交流を楽しむ、滞在型の余暇活動」と定義づけられており、この事業を推進することにより、都市と農山村の交流を通じて農山村地域の活性化を図る。					
根拠法令等	農山漁村滞在型余暇活動のための基盤整備の促進に関する法律、食料・農業・農村基本法など					
この事務事業を開始したきっかけ(いつ頃どんな経緯で開始されたのか)						
平成12年に「岩手県グリーン・ツーリズム推進協議会」に加入。盛岡市においても社会的なGT事業の推進を目的に、平成14年に「盛岡市東部グリーン・ツーリズム推進協議会」設立。						
この事務事業に対して関係者(市民、議会、事業対象者、利害関係等)からどのような意見・要望が寄せられているか						
中高年層を中心に市民の関心は高い。また、農政懇談会等において情報発信などGT事業推進について意見等が出された。						
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令)はどうか変化したか。今後の見通しはどうか						
都市住民の余暇活動のひとつとして、いわゆる団塊の世代を中心として年々関心は高まっている。また、近年、盛岡市でも地元住民を中心とした地域振興の手法として活動が活性化してきた。さらに、地産地消、食育、農家民泊、小中学生を中心とした体験学習など需要も増加している。市内においては、各施設、組織、個人がGT事業に取り組んでいるが、まとまった形での情報発信等がなされていないことから、推進体制の構築が必要である。						

2. 事務事業の実施状況(Do)

①対象 (誰を、何を対象としているのか)	市民	⇒	②対象指標 (対象の大きさを示す指標)	A. 人口	単位	千人
				B.	単位	
				C.	単位	
③手段 (事務事業の内容、やり方、手順)	22年度実績(22年度に行った主な活動) 盛岡市東部グリーン・ツーリズム推進協議会構成団体の事業の補助や周知PRなどを実施。 23年度計画(23年度に計画している主な活動) (仮称)盛岡市グリーン・ツーリズム推進協議会を設立し、各団体が実施する事業の周知を図る。	⇒	④活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)	A. イベント数	単位	件
				B.	単位	
				C.	単位	
⑤意図 (この事業により対象をどのように変えるのか)	都市農山村交流を通じ、農林業への理解・関心を深めてもらい、農山村地域の活性化を推進することを目的とするもの。	⇒	⑥成果指標 (意図の達成度を示す指標)	A. 交流人数 【指標の性格: <input type="radio"/> 上げる <input type="radio"/> 下げる <input checked="" type="radio"/> 維持する】	単位	人
				B.	単位	
				C.	単位	
⑦結果 (上位基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するか)	自立が図られる	⇒	⑧上位成果指標 (上位基本事業の成果指標)	都市・農山村交流人口(単位: 人) 農業純生産額(単位: 百万円) 林業純生産額(単位: 百万円)		

2. 事務事業の実施状況(続き)

⑨事務事業の各種指標の実績及び目標値

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	目標年度 目標値
対象 指標A	人口	千人	297	297	297	298	298	298	24年度
対象 指標B									年度
対象 指標C									年度
活動 指標A	イベント数	件	6	7	7	5	6	6	24年度 6
活動 指標B									年度
活動 指標C									年度
成果 指標A	交流人数	人	1100	1232	1200	1625	500	500	24年度 500
成果 指標B									年度
成果 指標C									年度

⑩事務事業に係る事業費

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	*****
事業費	A	千円	200	198	198	198	0	100	*****
財源 内訳	④国	千円							*****
	⑤県	千円							*****
	⑥地方債	千円							*****
	⑦一般財源	千円	200	198	198	198	0	100	*****
	⑧その他	千円							*****
	合計(④~⑧)(=A)	千円	200	198	198	198	0	100	*****
	延べ業務時間数	時間	20	20	20	20	50	50	*****
	職員人件費(B)(臨時職員賃金は、事務費に含む)	千円	80	80	80	80	200	200	*****
	トータルコスト(A)+(B)	千円	280	278	278	278	200	300	*****


3. 事務事業の評価(See)


必要性評価	① 施策体系との整合性 この事務事業の意図は、結果(政策体系)に結びついていますか？	<input type="radio"/> 見直す余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 結びついている	理由: 農山村振興に貢献している
	② 公共関与の妥当性 市がやるべき事業ですか？ 税金を使って達成する目的ですか？	<input type="radio"/> 見直す余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 妥当である	↳ 「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input type="radio"/> 内部管理事務である <input checked="" type="radio"/> その他 理由: 農山村振興のため市が行う事業である
	③ 対象の妥当性 対象の設定は現状のままでもいいですか？ 広げられませんか？ また絞らなくてよいですか？	<input type="radio"/> 拡大または絞る余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 現状で妥当である	↳ 「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input type="radio"/> 内部管理事務である <input checked="" type="radio"/> その他 理由: 市民が農山村で交流を行うことが目的であるため、全市民が対象となる
	④ 意図の妥当性 意図(何を狙っているのか)を絞ったり拡大したりして、成果向上できませんか？	<input type="radio"/> 拡大または絞ることができる ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 現状で妥当である	↳ 「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input checked="" type="radio"/> その他 理由: グリーン・ツーリズム事業によって農山村の活性化を図ろうというものである。
有効性評価	⑤ 成果の向上余地 成果がもっと向上する余地はありますか？	<input checked="" type="radio"/> 向上余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> 向上余地がない	その内容: GT活動の情報収集をし広くPRしたり、実施団体間で連携したりすることによって成果が向上する。
	⑥ 廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合、施策の成果に及ぼす影響はありますか？	<input type="radio"/> 影響がない ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 影響がある	その内容: 農山村地域の活性化に影響を及ぼす。
	⑦ 類似事務事業との関係 類似の事務事業(国、県、市の内部、民間)はありますか？	<input type="radio"/> 類似事業がある <input checked="" type="radio"/> 類似事業がない	事業名: _____ ※類似事業がある場合、その事務事業と統廃合又は連携を図ることにより成果向上はできませんか？ 統廃合・連携検討 <input type="radio"/> できる ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> できない 理由: _____
効率性評価	⑧ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できる余地はありますか？	<input type="radio"/> 削減余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 削減できない	理由: 補助金は平成22年度で終了するが、GT活動のPRや団体の連携支援、協議会運営に係る最低限の事業費が必要である。
	⑨ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費(延べ業務時間数)を削減する余地はありますか？	<input type="radio"/> 削減余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 削減できない	理由: 最低限の人員であり、今後、協議会の設立によって業務時間数が増加する。
公平性評価	⑩ 受益機会の適正化余地 受益機会の適正化余地はありますか？	<input type="radio"/> 適正化余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 公平・公正である <input type="radio"/> 特定の受益者はいない	理由: イベント・事業等の開催について周知し、参加を募っている
	⑪ 費用負担の適正化余地 受益者の費用負担の適正化余地はありますか？	<input type="radio"/> 適正化余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 公平・公正である <input type="radio"/> 特定の受益者はいない	理由: 参加者から参加費を徴収している。

4. 事務事業の改革案(Plan)

改革 改善 方向	①改善の方向性(この事務事業をどう変えていくか、廃止や拡充、事業方式改善など) ※複数ある場合は、代替案その1、代替案その2とすること
	②改革、改善を実現していく際に想定される問題点は何ですか？ それをどう克服していきますか？ (関連部門や全庁的な調整の必要性、トップへの要望も含む)

5. 課長意見

一次 評価	(1)一次評価者としての評価結果	(2)全体総括(振り返り, 反省点)	
	① 必要性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり		イベントへの補助金交付のみであり、今後は全市的な取り組みを検討する必要がある。
	② 有効性 ○ 妥当 ● 見直し余地あり		
	③ 効率性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり		
	④ 公平性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり		
：			

今後 の 方向 性 と 改 革 改 善 案	(3)今後の事務の方向性(改革改善案)
	<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携
	
方向付けの理由と改革改善の内容 農山村の活性化のためにグリーン・ツーリズムの推進は必要であり、推進団体と体制を整備し、できることから推進するものとして継続する。	